

論壇

国際的なセミナー気軽に

年に1度ほど、米国の大学や経済団体を回って日本経済についてセミナーを行ってきた。私にとっては非常に大切な活動であった。米国の人たちからの質問は、日本国内でのセミナーとは違ったタイプのものが多い。それに答えるため、こちらも普段はあまり考えなかったことに思いを巡らせる。だから刺激にもなる。

会場で顔を突き合わせながらのセミナーは、話をする方もそのセミナーに参加する人たちも臨場感を持って参加できる。世界中でこうした国際セミナーが行われてき

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

たということば、そうした活動に意味があると多くの人が認めているからだろう。

新型コロナウイルスによってこうした活動は全て中断してしまっただ。私自身も昨年の2月にアトランタでセミナーを行って以来、日本から出ることのない生活が続いている。それでも活動を全く停止

オンライン会議のパワー

するわけにはいかないのです、オンラインでの会議やセミナーに参加するようになった。気が付いたら、かなりの数のオンラインのセミナーや会議に参加することになって

いる。気軽に参加できる良さがある。

先口、米系の投資運用会社の人

ながらにして先端の情報を得られるということだ。参加者が増えたのだから。気軽に国際的な会議に参加できるということが、オンラインの便利なところだろう。

そういうえば、私の米国でのセミナーのための出張は中断している

が言っていた。この会社は香港などで国際的な大きなセミナーを毎年行っていて、日本の金融関係者なども招待するそうだ。ただ、なかなか海外まで出張で出てくる人は少なかったそうだ。

ところが、コロナ禍の中でセミナーをオンラインにしたところ、参加者が増えたそうだ。日本に居

るが、先口、その代わりにオンラインでセミナーをする依頼を受けた。ハーバード大学のプログラムの中でセミナーだ。パソコンに向かつての講演であるので少し不自由さは感じたが、それでも問題なくセミナーを終えた。

コミュニケーション変化

その後の自由討議で驚くべきことが起きた。ハーバード大学はボストン近郊にある大学なので、私はそこでの参会者を想定して話をしていた。ところが、その後の討論会には、ニューヨークのコロナビア大学の有名な経済学者や、ワシントン在住の米国のかつての通商交渉官などが参加している。一瞬驚いたが、すぐに理由がわかつ

た。要するにハーバードのセミナーの事務局が会議のことを他の地域の何人かの人にも連絡していた、それを見た一部の人がオンライン会議にアクセスしているのだ。おかげでニューヨークやワシントンの旧知の友人と会話をする機会が持てた。

私としては実際に出かけて行ったことは寂しい。ただ、そうした中で大変な勢いで増えているオンラインの会議のパワーを見せつけられることも増えている。オンラインとオフラインのどちらが良いと言ったものではない。ただ、コロナ危機によってグローバルなコミュニケーションの姿は大きく変化していることは間違いない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。